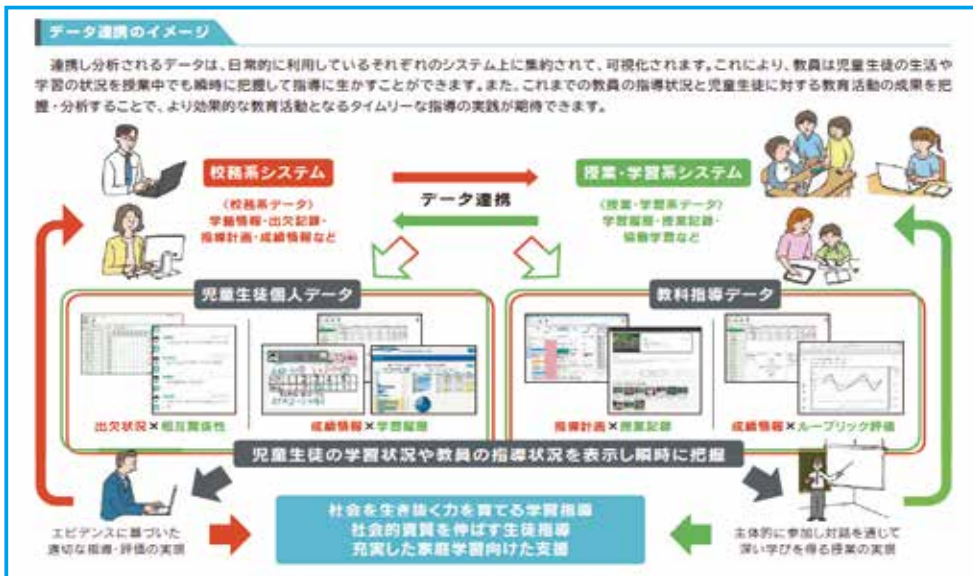




影岡 俊範 議員



これからの教育現場とICTの役割は

問 平成29年3月に新小学校学習指導要領及び新中学校学習指導要領が公示された。とりわけ新小学校学習指導要領においては、小学校でプログラミングが必修化され学校教育教職員への負担はますます増大してくると思う。この現状を改善するためICTの活用をどう考えるか。

答 本馬教育長
小中学校の新しい学習指導要領では、コン

ピュータや情報通信ネットワークなどを活用するために必要な環境を整え、児童生徒の情報活用能力を育成することを求めている。

本町では、平成28年度からデジタルテレビ導入、全教室への超高速インターネット回線の整備、放映機やデジタル教材の購入11月には、パソコン及びタブレット端末の更新など、段階的に整備を進めてきた。

小学校のプログラミング教育とは、それを体験させながらコンピュータに意図した処理を行わせるために必要な「論理的思考力」を身に付けさせる教育だ。

本年11月に更新したタブレット端末には、プログラミング教材が含まれており、はじめての教育を行なう教師にも扱いやすく、児童も操作がしやすいものとなっている。

換し、課題に対応できる「次世代の学校」を実現するため、教員が誇りや情熱をもって使命と職責を遂行できる環境づくりをすることに努める。

答 本馬教育長
文部科学省の委託事業「学校現場における業務改善加速事業」の趣旨は学校が抱える課題が複雑化・困難化する中、教員の長時間勤務の実態が明らかになっている。

これからの時代を支える創造力を育む教育へ転

向けて検討したいと思う。

意見 新学習指導要領等で教育現場に負担が増えることを危惧していたが、その点は安心できた。要領に探究的な学習過程に適切に位置付けるようにするとある。各教科に組み込むことを要求されており、教職員には授業プランの技量を問われるのではないだろうかと考え

要望的意見 統合型校務支援システムは導入には高額な費用が掛かると承知しているが、教職員が児童と向き合う時間を取り戻し、本来の教育事業を実践するためのツールとして必要なシステムであると考え、積極的に取り組むことを望む。